総 括 報 告 書

（分担研究： 健康新生児の管理に関する研究）

山 内 逸 郎*

要　　約

初年度は健康新生児が如何なる方法で管理されているか全国的なアンケート調査を行った。第2・3年度は皮膚表面，臍断端残遺部，および鼻咽腔の常在菌の菌相およびその菌数が，一般的ケアーによってどのように変化するかを検討した。この場合成績の精度の向上のため，試料はトランスワブに採り，国立岡山病院に速達郵送し，細菌学的検討を行った。また第3年度には早期頻回授乳が乳児期に及ぼす意義を検討した。また臍動脈，臍静脈の病理学的変化についても検討した。このほか初乳のウィルス性疾患に対する抗体についても検討を加えた。

結　　果

全国的アンケート調査の結果，健康新生児の一般点ケアとして問題になるのは，臍断端の取扱いと沐浴そして授乳であると考え，それらに焦点をしぼって細菌学的な検討を加えた。

(1) 臍帯断端残遺部における細菌相と，新生児の一般的ケア

細菌数と細菌相は施設相互関に極めて大きな相違がみられた。これは保育環境，運営方針，一般的ケアの差によると考えられた。これを実証するために，ある施設において沐浴を中止してみた。しかしその前後に菌数菌相に相違はみられなかった。

注目すべき所見は，混合栄養，人工栄養，新生児では大腸菌の定着率が高く，これに反し母乳栄養新生児ではその定着率が著しく低かったことである。

(2) 胎脂と皮膚細菌相

総好気性菌数は胎脂除去側と対照側とで差を見なかったが，Staph epidermidis では胎脂除去側では有意に菌数が多かった。大腸菌は人工乳を容易に添加する方針の施設で高頻度に検出された。fungus は胎脂除去側のみに検出された。嫌気性菌が皮膚から検出されたのは母乳栄養児のみである。

(3) 鼻咽腔細菌相

人工乳を容易に添加する方針の施設で，大腸菌の鼻咽腔定着が高頻度に認められた。鼻咽腔総好気性菌数は胎脂非除去皮膚面総好気性菌数と相関した。嫌気性菌が検出されたのは母乳栄養児からのみである。

(4) 早期頻回授乳とその臨床的意義

生後24時間以内の母乳の授乳回数が，その後の新生児の哺乳量，黄疸の強度，胎便排出，体重増

* 国立岡山病院

加に好結果をもたらす。

(5) 母乳中のウィルス抗体

母体血，臍帯血に母乳を加えたペア検体で，不顕性感染によるエンテロウィルス中和抗体価を検討した。その結果母乳中の抗体価が，母体血と同等またはそれ以上の価を示す検体のあることは腸乳腺免疫系よりみて興味深い。これは健康新生児の管理における初乳授乳の重要性の証しであると考えられる。

(6) 臍帯動静脈の病理

成熟児未熟児57例について臍帯動静脈の病理所見を検討した。臍帯カテーテルを挿入していない症例で認められる動脈炎静脈炎の存在は，臍そのものが新生児における細菌の侵入門戸であることを示しており，臍帯のケアを軽視できないことが認識された。

考　　察

新生児の管理，特に一般的ケアはナチュラルでなくてはならない。いいかえれば母乳保育でなくてはならない。そのことは多くの点でメリットがある。そのいくつかは本分担研究の結果からも明らかである。

しかし臍のケア，皮膚の一般的ケアが，どのように実施されなくてはならないか，決定的な論点を把握するまでにはいたらなかった。今後さらに検討を進める必要があると考えられる。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約
初年度は健康新生児が如何なる方法で管理されているか全国的なアンケート調査を行った。第 2・3 年度は皮膚表面、臍断端残遺部,および鼻咽腔の常在菌の菌相およびその菌数が,一般的ケアーによってどのように変化するかを検討した。この場合成績の精度の向上のため,試料はトランスワブに採り,国立岡山病院に速達郵送し,細菌学的検討を行った。また第3年度には早期頻回授乳が乳児期に及ぼす意義を検討した。また臍動脈,臍静脈の病理学的変化についても検討した。このほか初乳のウィルス性疾患に対する抗体についても検討を加えた。